

史跡広島城跡石垣の観察ポイント

2023年10月25日、11月11日 現地調査所見

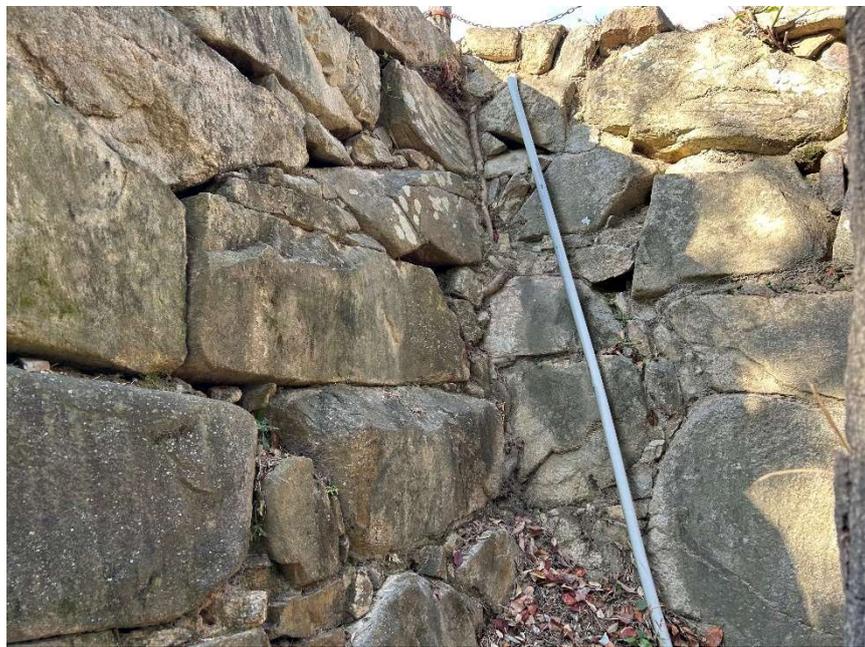
1 ■H057(南小天守東側張出)入隅部

左から：

南小天守台東面
→同出隅部→同
北面 (H057) →
同入隅部→渡櫓
部 (H056)



H057 と H056 入隅
部接写
H056 が突き通る



2 ■H060(南小天守南面) 上部

写真位置の築石の縁辺に、矢穴状の加工痕が見られる。



同接写
加工は通常の矢穴よりもやや浅い



3 ■H060(南小天守南面) 上部

築石周辺に間石が良好に残る。築石右側の空隙部も当初は隙間無く仕上げられていたと考えられる。



同接写。
石材間にほとんど隙間が無い。当初の状況が良く残っている箇所。



4 ■H060(南小天守南面) 上部

同じ築石の右側の空隙部。奥に見える築石の噛み合いから、築石の欠落ではなく、間石・間詰、裏込の欠落と判断される。



築石同士は奥ではきちんと噛み合っている。



5 ■H072 (南小天守の南側)

築石は四角形状に整形された石材が多く、明瞭な矢穴、刻印が見られる。



同接写。矢穴と刻印
ほかにもL字型の刻印等も見られる。この面では刻印が多く確認される。



6 ■H070 (南小天守の南側)

築石と間石・間詰が隙間なく構築されている状況が良く残る箇所。

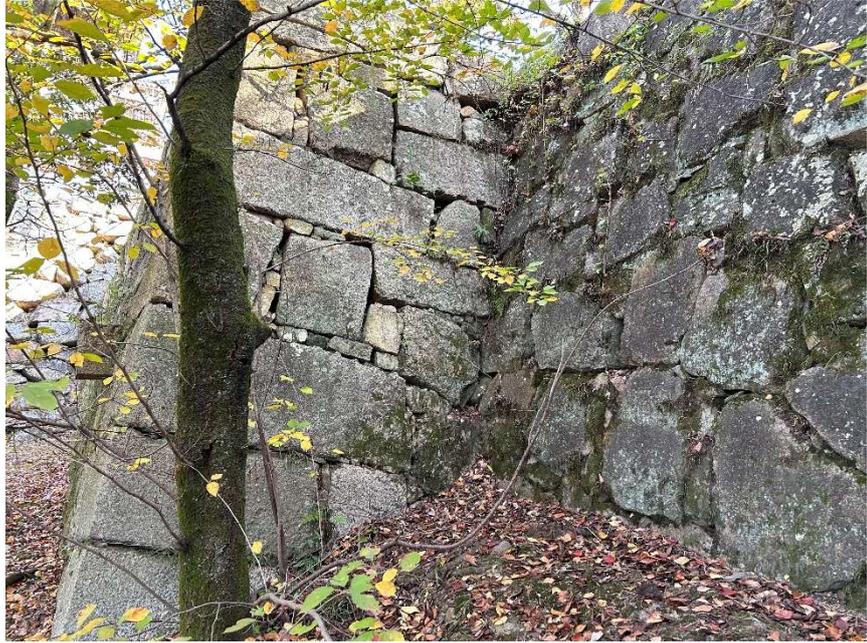


同接写



7 ■H071.072 入隅部：互い違いに入り組む。

写真左から、
H071→同入隅部
→H072
築石は一段づつ
互い違いに入り
組んでいる。



同接写



8 ■H071 上部築石

石材縁辺の明瞭な矢穴。



同接写。



9 ■H071 角石脇の間石

「スダレ」が横に入っているように見え、補修の可能性もある。隣接する石材間で、石材の表面加工（スダレやハツリ）の不整合が見られないかどうかについては、全体的に留意して観察する必要がある。



10 ■ H070 南西出隅

突き出た排水口。本丸北面の排水溝と構造が異なることに留意する。この範囲の隅角部の算木積みは、天守台とは様相が大きく異なる。



同接写。
間石・間詰も明瞭に残る。



11 ■ H070 中程部分

H070 は比較的
四角い石材を多く
用いているが、部
分的に長方形の
石材や自然面が
多く残る部分
が見受けられる。

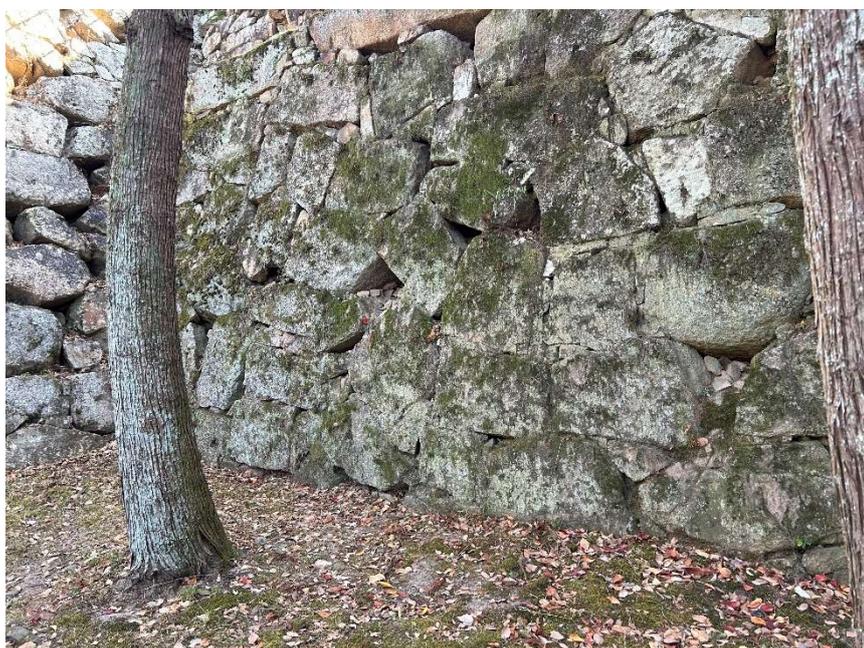


同接写。
中央部の石材は
両脇の築石の状
況から間石と考
えられるが、両
脇の築石とほぼ
同一平面を構成
する。



12 ■ H070 北側部分

この辺りの間石・
や間詰は特に良
好に残存してい
る。



同接写。



13 ■ H070 北端部

残存状況から、この面の空隙は間石が落ちたものと考えられる。



同接写。



同接写。別角度。
裏込は抜け落ちている。



14 ■ H060 (南小天守南面)・H070 入隅

南小天守台 H060
との接合部。
左から H060→入
隅部→H070。
H060 が突き通
る。小天守台の
間石・間詰の抜
けが少し目立
つ。



同接写。
H060 の石材が
H070 の石材の奥
に入り込んでい
るのが見える。



15 ■ H060 (南小天守南面) 正面

やや空隙が目立つが、大半は間石・間詰の抜けであり築石の抜けは見られず、石垣の構造上は大きな問題はない。

石垣の構造への影響を判断するには、抜け落ちた石材の種類に留意し、間石・間詰・築石等の判別も必要と考えられる。



16 ■ H060 (南小天守南面) 下部の築石

石材縁辺に残る加工痕は通常の矢穴とは異なる。石核作業面の周縁部のような痕跡が観察される。

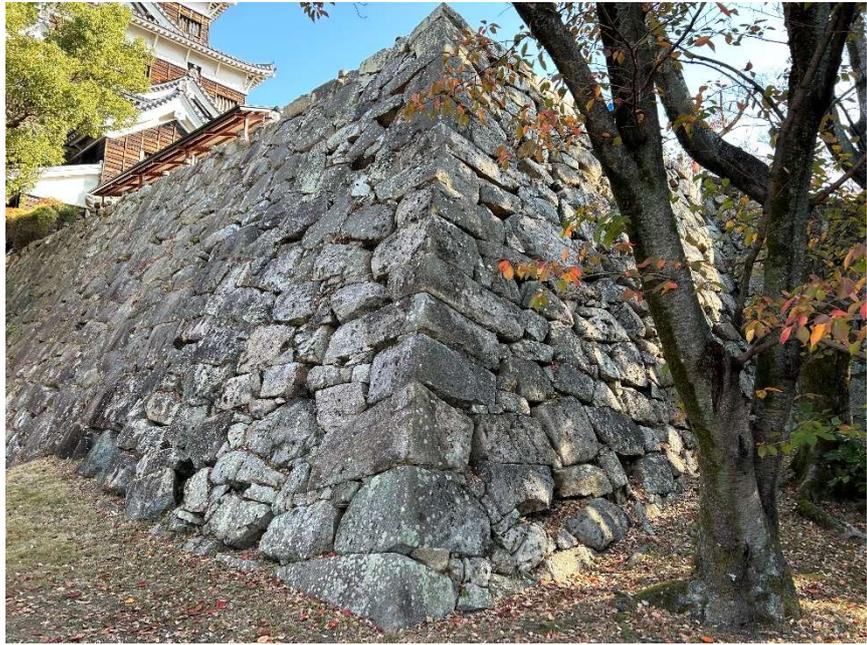


同接写。
石材縁辺には、剥離、剥落に近い痕跡が見られる。



17 ■ H060 (南小天守南面) . 061 (南小天守西面) 南西出隅

出隅部のラインは若干左右にブレるが、算木積みを意識している。



角石の下部に介石を入れ、角度調整をしている例。



18 ■ H061 (南小天守西面) 下部

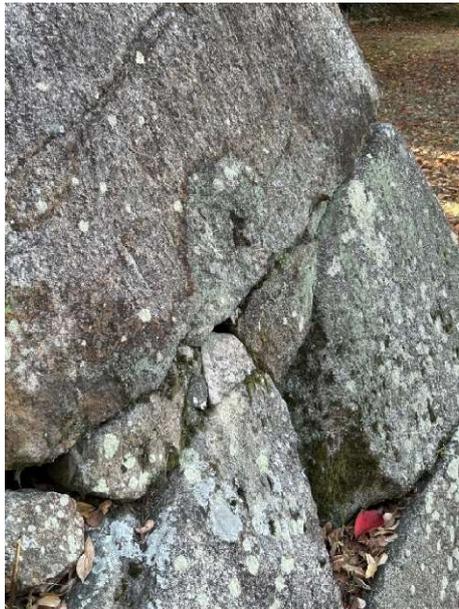
角石のすぐ隣りに、荷重のかかっていない間石が見られる。



同接写。両脇の築石は奥できちんと噛み合う。



別角度からの画像。ほぼ同一平面を形成しており、丁寧に仕上げられている。



19 ■ H061 (南小天守西面)

現状では築石の原石形状の自然石の丸味が少し目につくが、本来は前例のように空隙は丁寧に処理されていたとも想定される。
最下段の左側空隙は左右の築石が奥でかみ合っており、間石・間詰、裏込の抜けおちと考えられる。



同接写。
本面では築石の抜けは確認されていない。

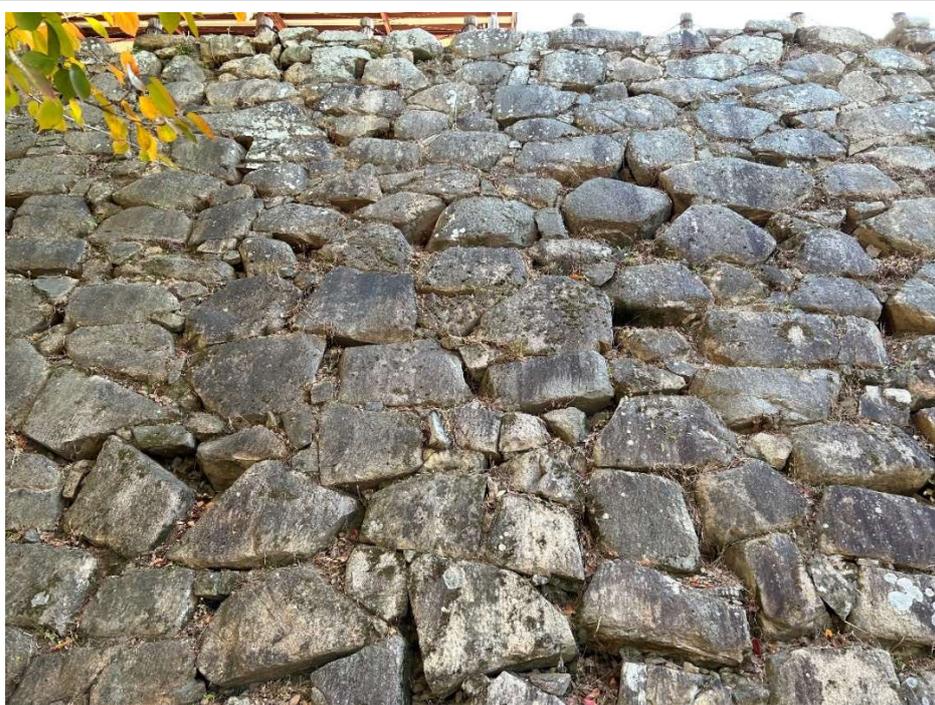


同接写。
奥の裏込は抜け落ちている。



20 ■ H061 (南小天守西面) 中央部

石材を越えて施された
スタレによる丁寧な仕
上げの例。



同接写。
加工は比較的浅い。



21 ■ H061 北端部

中央部築石の周辺部の丁寧な処理が良好に残る。



右下隅の間石は若干外れている。

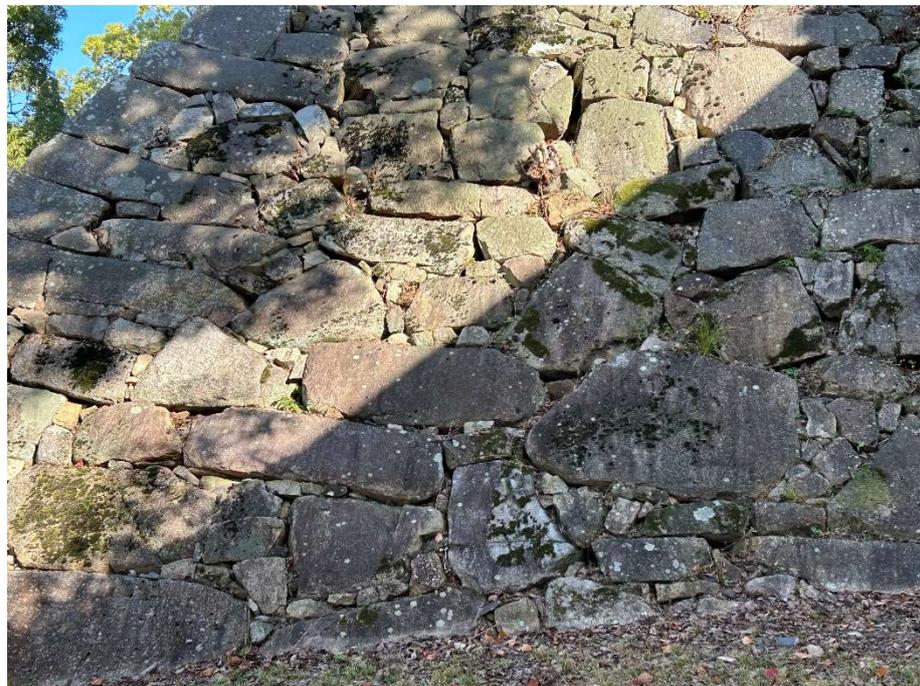


22 ■ H048. 天守台南面

長い石材を
選択的に用
いている。
そのため全
体的に古め
の印象を受
ける。

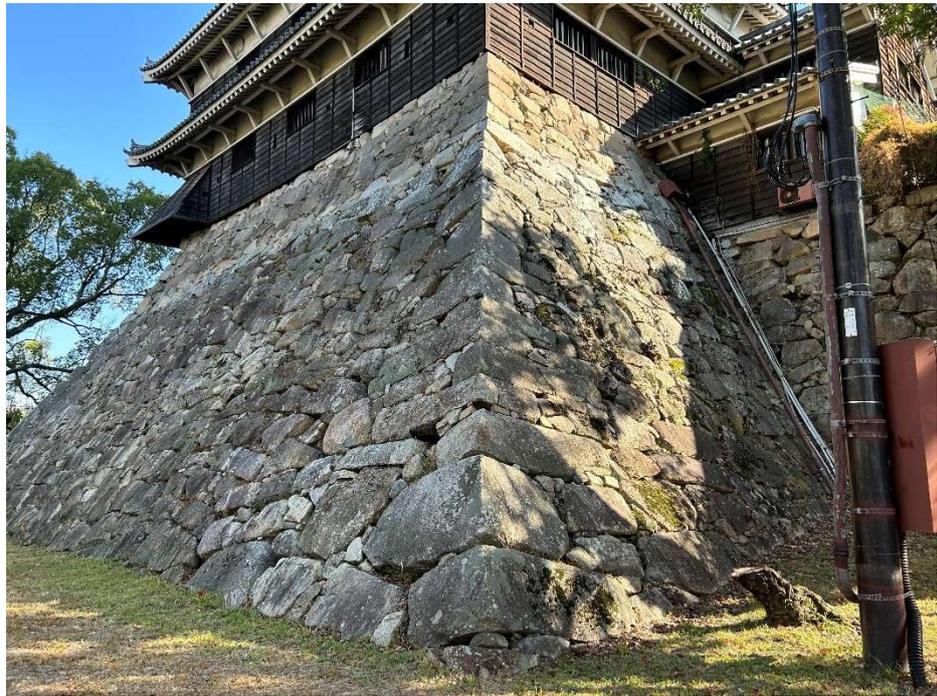


同接写。



23 ■ H048(天守台南面). 049(天守台西面)出隅：天守台南西角。

左から、
H049（天守
台西面）→
天守台南西
出隅→H048
（天守台南
面）
出隅部のラ
インはやや
左右にブレ
ている。



下から三つ
目の角石に
注目。H048
では角石の
角度を踏襲
して横方向
の築石を置
けたが、
H049 の面
では角石の
大きさが不
足したため、
ヤセ角にな
っている。

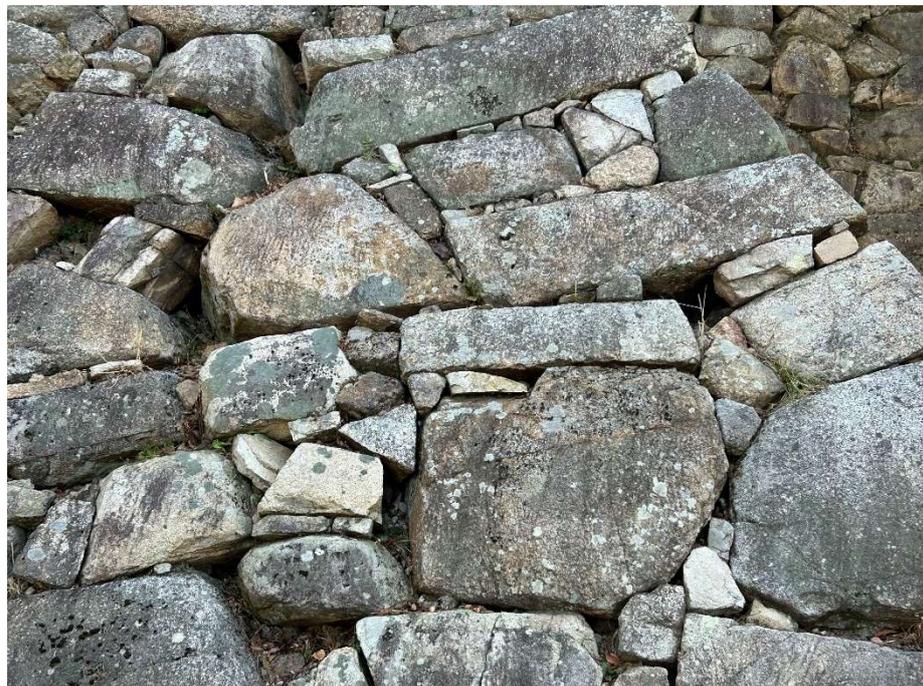


24 ■ H049 (天守台西面) 下端部

角石の大きさが不足していることから、築石の乱れが発生している。

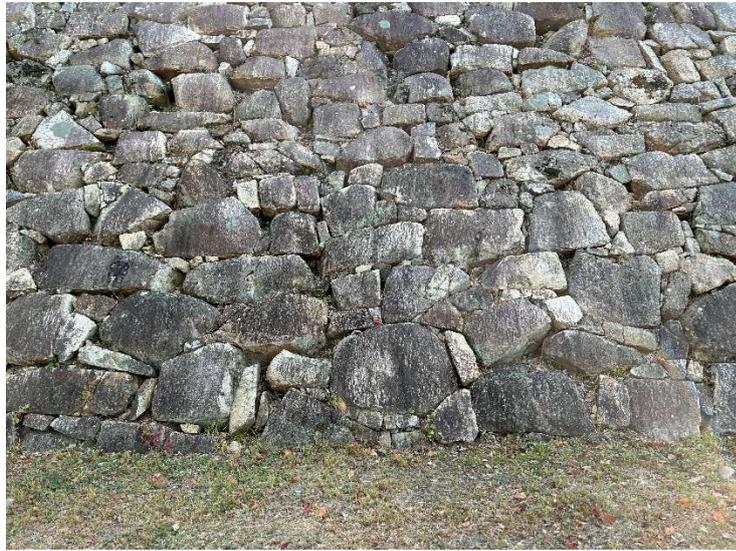


同接写。
下部隅が欠けた角石が多く観察されるが、介石部に不自然な荷重がかかった事により生じた可能性もある。



25 ■ H049 (天守台西面) 中央部下端

全体的に長い石材、
大きな石材を選択的
に用いているため、
大きい石の周囲は、
結果的に「笑積み」
状に巻かれている。

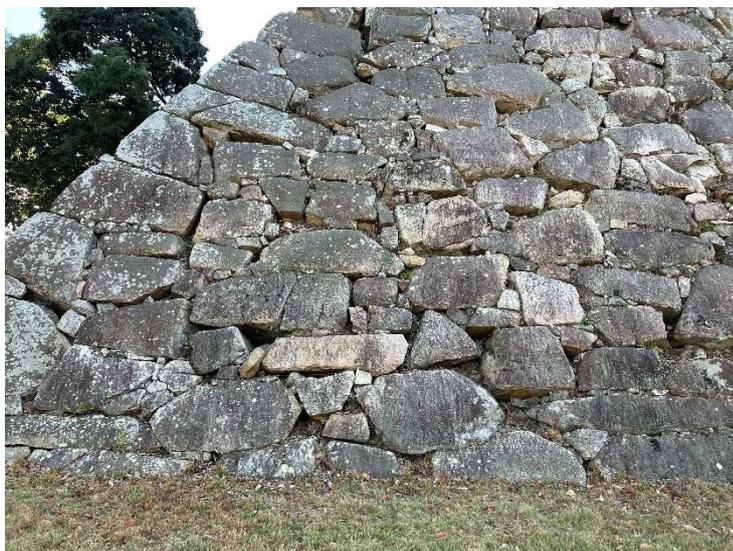


同接写および別角
度。
状況となっている。
中央の石の奥がどの
ような状況であるか
は不明であるが、周
りの大半は間石・間
詰で、表面加工は丁
寧。比較的良好に残
存している。

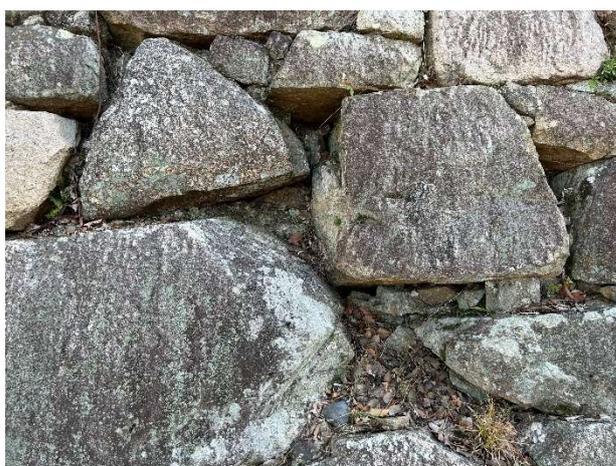


26 ■ H049 (天守台西面) 北端部付近

長い石材の縁辺と周
辺の空隙に留意。



同接写。
石材縁辺には剥離、剥
落状の加工痕跡が残
る。

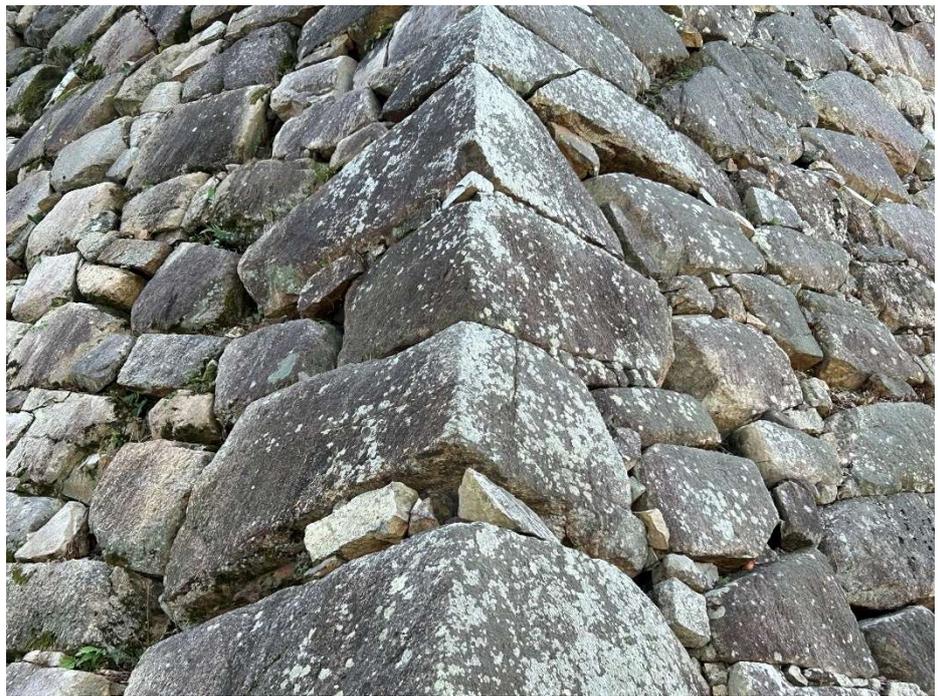


27 ■ H049 (天守台西面). 045 (天守台北面) 出隅

左から、
H045 (天守
台北面) →
天守台北西
出隅→H049
(天守台西
面)。
角石下端の
欠けと石材
下部の欠損
に留意。



同接写。
角石下部が
欠けている
のは、上部
からの荷重
に加え、点
で支えるよ
うな介石に
より力が分
散しきれな
かったため
かと推測さ
れる。

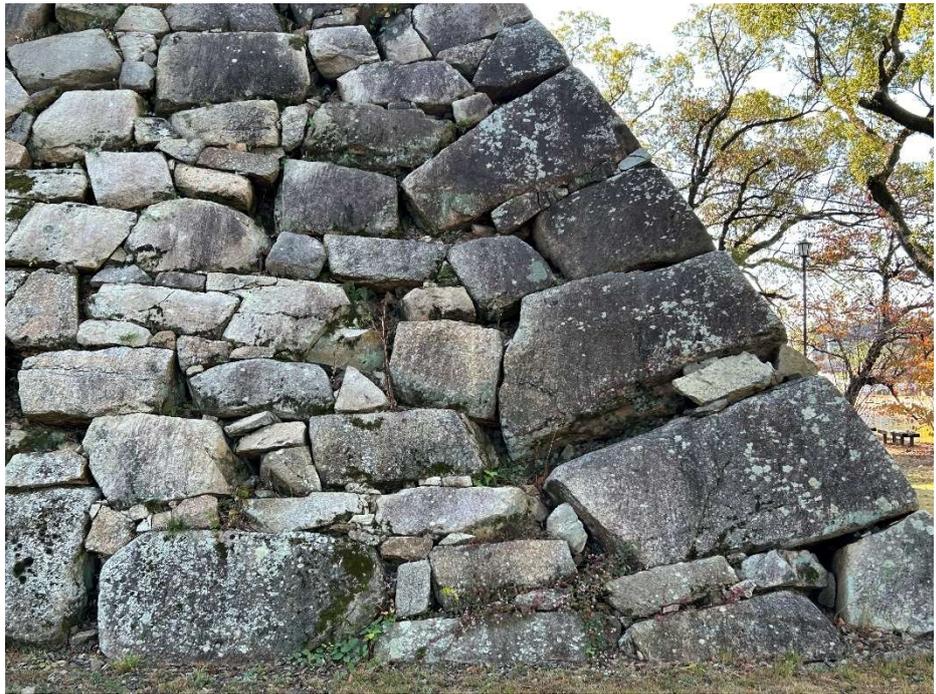


28 ■ H045 (天守台北面) 出隅西端

上部にはわずかに反りが見られる。天端の平面形状を確保するための調整の結果か？



やや小さめの築石によって構成されている傾向も見られる。



29 ■ H045 (天守台北面)

最下段中央の石材に注意。石垣面を構成する部分は狭いが、奥行きがあり築石として機能していると考えられる。

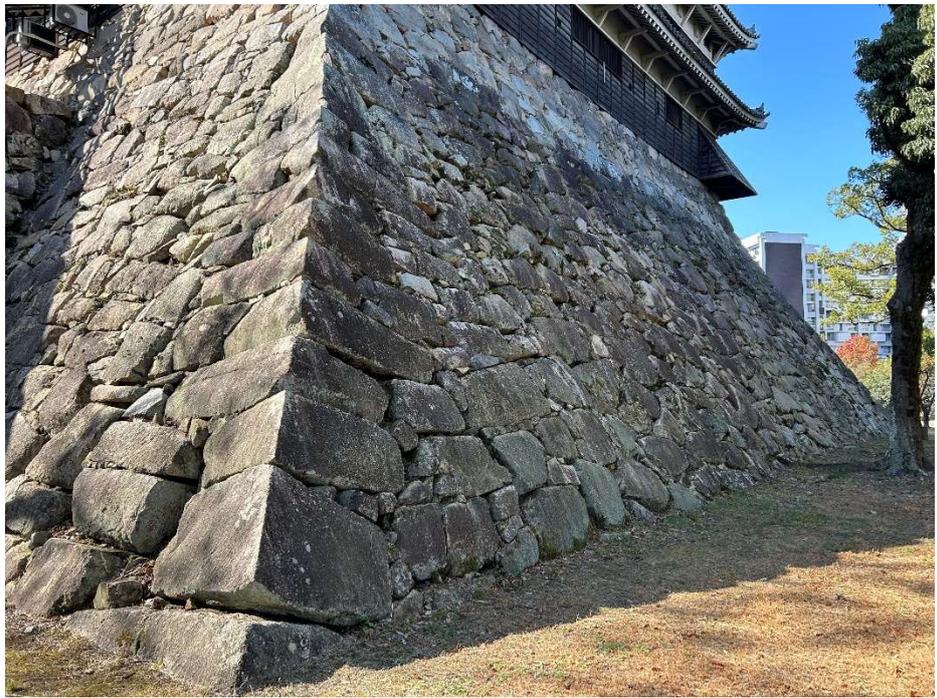


同接写。石垣面を構成するのは、スタレが施されているこの部分のみ。中央部下端石材左は間石・間詰が失われているが、右手は残存している。



30 ■ H045 (天守台北面) 東部出隅

左から H046
(天守台東面) → 天守
台北東部出
隅 → H045
(天守台北
面)。
使用石材は
大きく、全
体的に面の
形成も丁
寧。

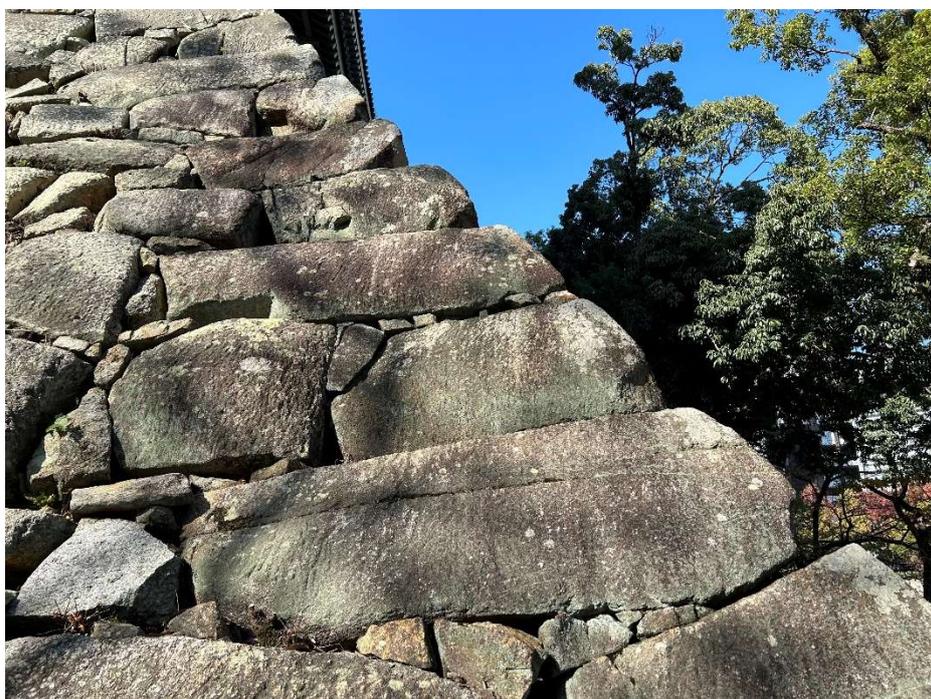


同接写。

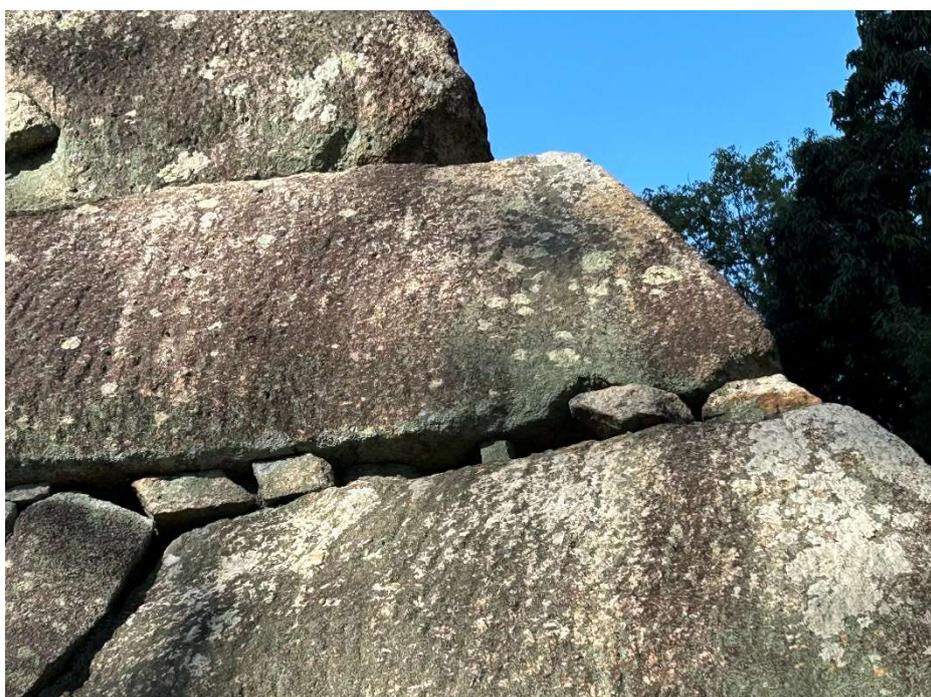


31 ■ H046 (天守台東面)

角石下端の
欠け（上）
と、まだ欠
けていない
角石
（下）。

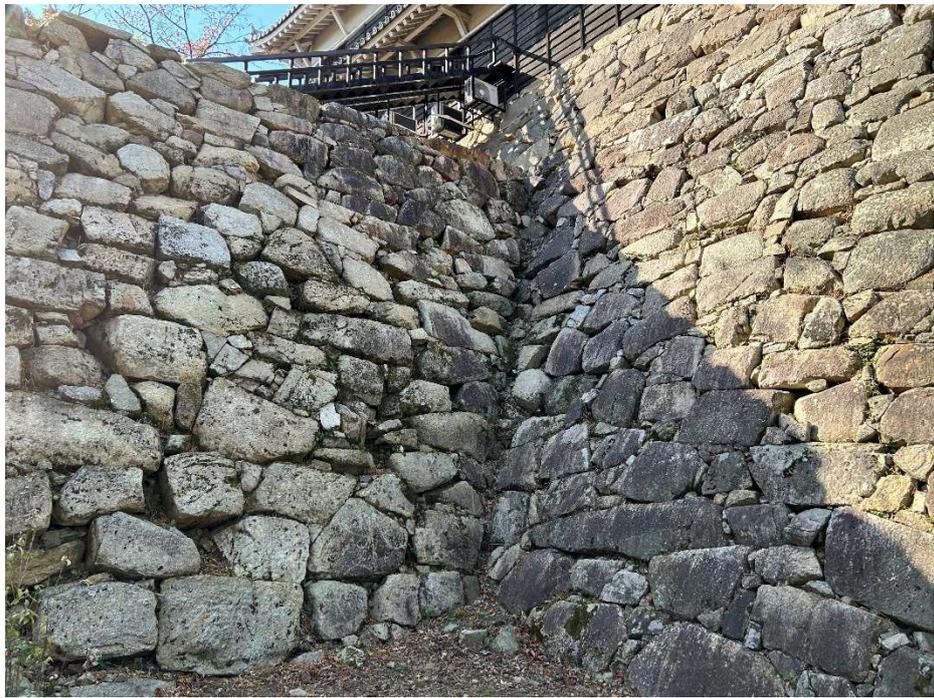


同接写。



32 ■ H046(天守台東面). 050(東小天守北面)入隅

左から、
H050(東小
天守北面)
→同入隅部
→H046(天
守台東
面)。
清掃後再確
認。46が突
き通る。



同接写。

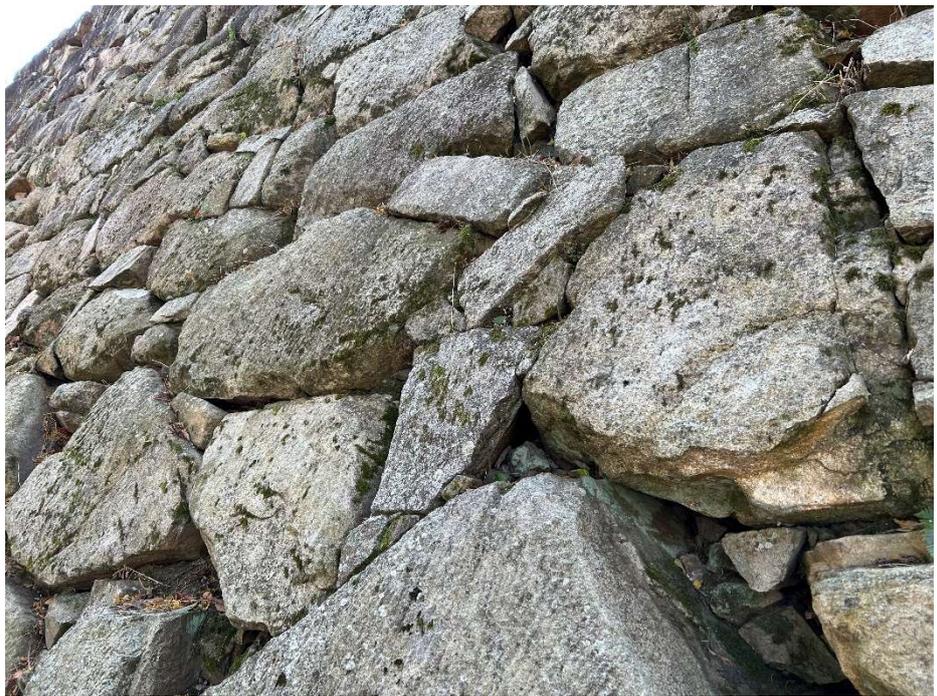


33 ■ H050 (東小天守北面) 西側

中央部の石材はやや大きいが間石と考えられる。

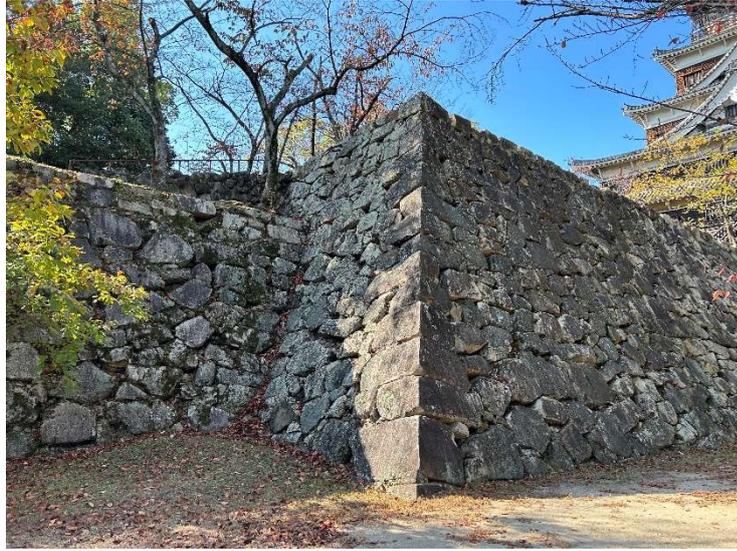


同接写。
石垣平面を構成するよう丁寧な仕上げが施されている。



34 ■ H050(東小天守北面)・051(東小天守東面)出隅

左から、H081→H051
 (東小天守台東面) →
 同北東出隅→H050(東
 小天守台北面)。
 角石の頂部処理は天
 守台に比べてだいぶ
 整っている。



角石下端が欠けた事
 により、一見すると階
 段状になっているが、
 本来は最下段のよう
 に介石があったかと
 想定される(現状では
 ずれがあるが)。



35 ■ H051 (東小天守東面). H081 入隅部 :

H051 (東小天守東面)
が突き通
る。

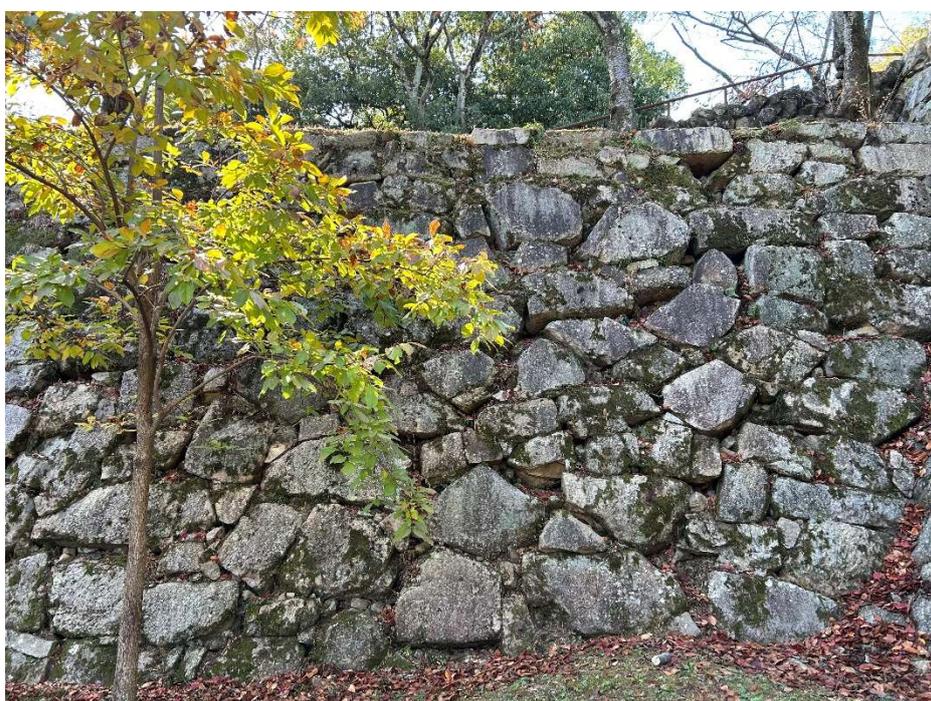


同接写。

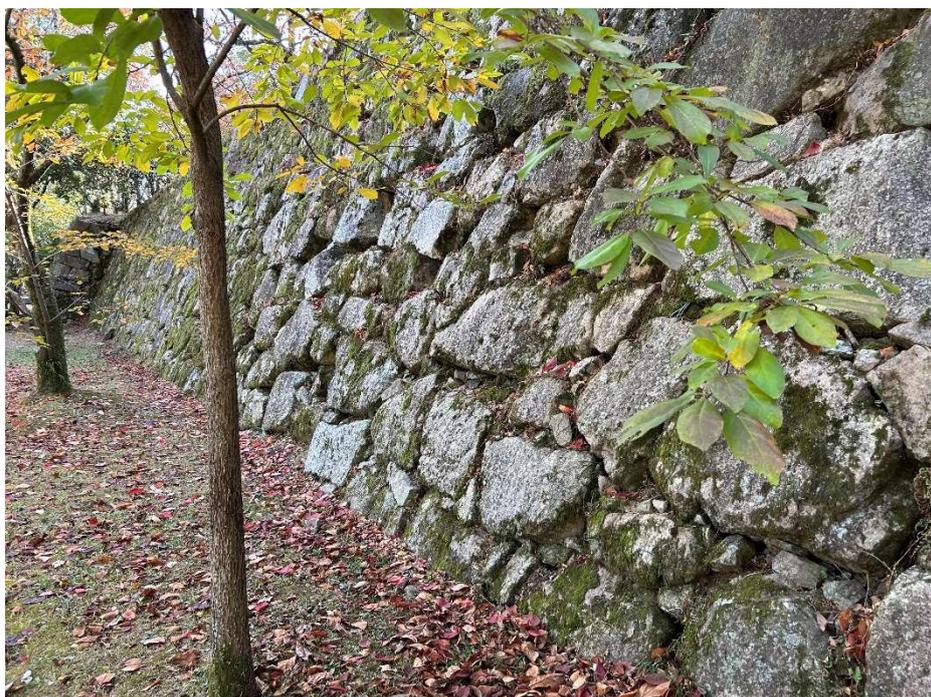


36 ■ H081 西側部分

この辺りの
石材もあま
り矢穴状の
加工は見ら
れない。



同別角度。

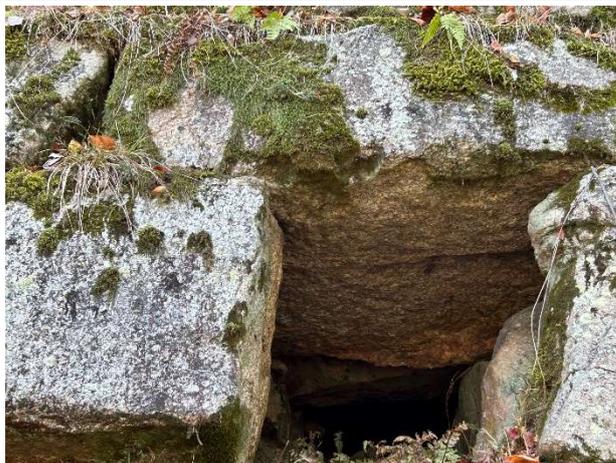


37 ■ H081 水抜き穴部分

突き出しの無いタイプ。奥行きは深い。



蓋石縁辺に二つ並んで矢穴が見られる



38 ■ H081 中央部下端：板状の石材に注目。

築石の隙間に裏込を空隙が出来ないように詰め、板状の石材で蓋をするようににして石垣表面を設えたと見られる。



同接写。
「蓋」のように裏込を覆い、築石とともに石垣面を構成していたとみられる。



39 ■ H081. 82 入隅 :

左から、
H083→同出
隅→H082→
同入隅→
H081。
今年のポイ
ント。清掃
後に再確認
が必要だ
が、入り組
むように見
える。



同接写。
一段置きに
入り組むよ
うに見られ
る。



39 ■ H082 東からの写真

石材には明瞭な矢穴が幾つも見られ、算木もかなり完成されている。
渡櫓部と櫓台の構築時期に関わる所見となるので、清掃後再評価を行う。



同接写。
石材縁辺には明瞭な矢穴が並ぶ。



40 ■ H083. 084 出隅

左から、
H085→同入
隅→H084→
同出隅→
H083。



同接写。
角石縁辺に
は明瞭な矢
穴が見られ
る。



41 ■ H084. 085 入隅

左から、
H085→同入
隅→H084。
一段毎に入
組んでいる
ように見え
る。



同接写。



42 ■ H095-097。

近代の改変
あり

同上。



43 ■ H093 南西隅部

鎧になって
いる理由は
現状では不
明。



44 ■ H046 (天守台東面)

石垣表面加工範囲の境界。
建造物の取り付き範囲（写真手前）には、スタレ加工が施されていない。



同接写。
境界付近は建造物の範囲に沿って、見える範囲にのみ表面仕上げが実施されている。



45 ■ H046 (天守台東面) 中央部

現在のところ、天守台石垣で確認できる矢穴はこの一例のみ。

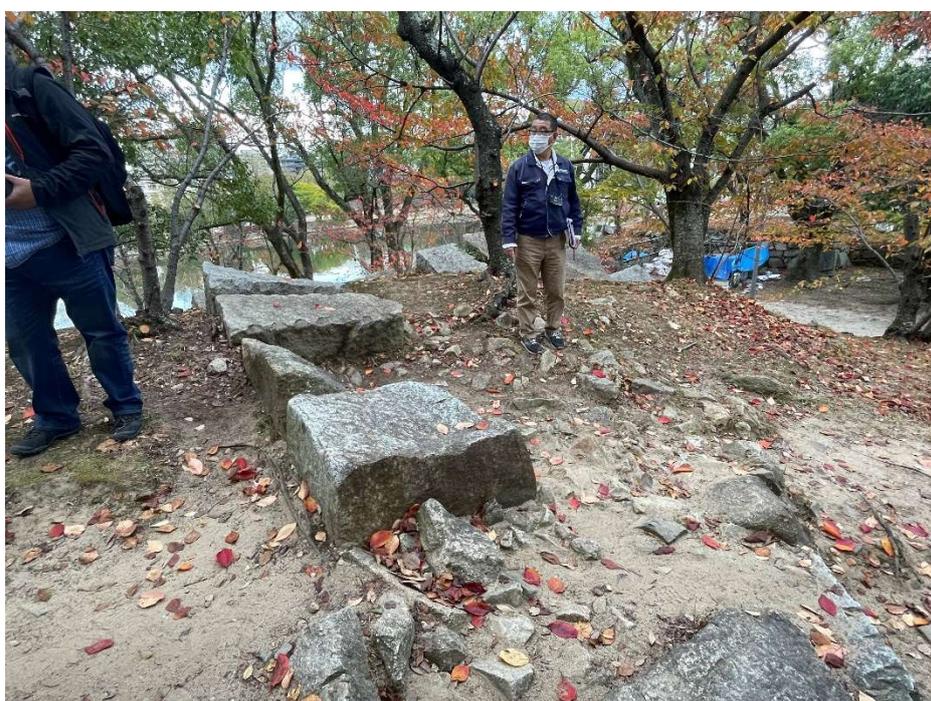


隣接する剥離範囲は矢穴か否か不明。



46 ■ H085

東端の櫓台
と思われる
埋没石垣



同別角度。



47 ■ H064、H065 出角部

北東方向から。



角石は被熱を受けて円状に剥落しているように見受けられる。



48 ■ 南小天守南端と南走り櫓範囲の接合部

現状では附番図に掲載されていない、埋没する石垣。

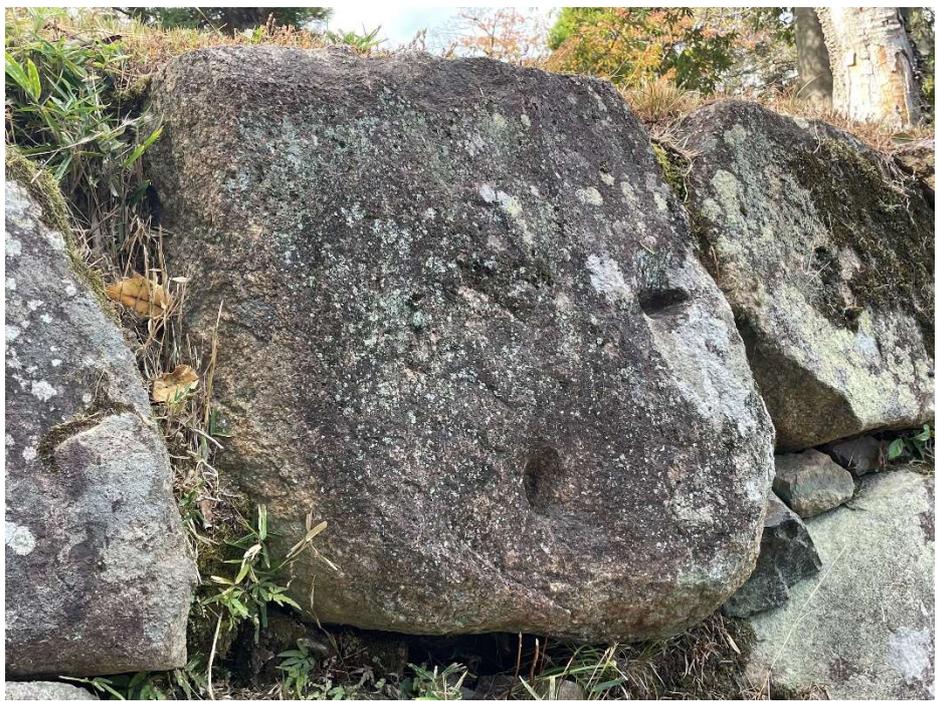


角と角が接合するような形で位置していたとみられる。



49 ■ H068

石材の分割には至らなかったとみられる加工痕。

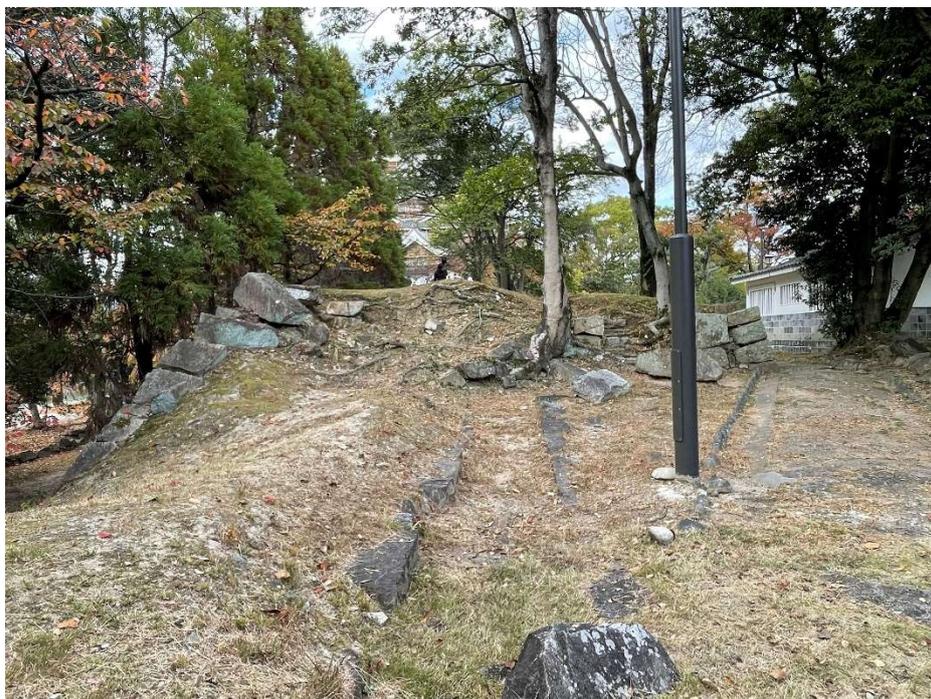


H068 と H072 の間の石段は、絵図にも記載が見られ、近世から位置が変わっていない可能性がある。



50 ■ H072 南端部

右は H068



周辺の浮石。
明瞭な矢穴がある石材が多い。

